

お米のはなし

お米や稻に関するちょっとした情報・豆知識を専門家が綴る「お米のはなし」の第27弾をお届けします。

(シリーズ担当: R. I.)

27. 各国における NERICA の普及状況

表27-1には、サブサハラ・アフリカ諸国におけるNERICAの普及状況を示しました(2013年現在)。右欄のNERICA収量は、筆者が栽培面積と生産量から算出して加えたものです。残念ながら、表27-1には陸稻と水稻の栽培面積比率、品種ごとの栽培面積などの情報はなく、単に各国におけるNERICAの栽培面積の合計を示したものと思われます。この表によれば、2013年現在、アフリカ全体の稻作面積1090万haに対し、NERICAは合計140万haに作付けされており、全体の約13%を占めています。また、アフリカ全体の米生産量2874万トンに対し、NERICAの生産量は295万トンであり、10.3%を占めています。NERICAの栽培面積は、ナイジェリアが最大の395,000haを占め、次いでギニアの177,000ha、マリの172,000ha、タンザニアの149,400ha、シェラレオーネが105,000haと、これら4か国がNERICAの栽培面積10万haを超えています。一方、その生産量は、ナイジェリアの69万トンが最高で、マリの57万トン、タンザニアの32万トン、ギニアの30万トンが続いています。これに対して、NERICAの収量は、ルワンダの4.88t/haが最高であり、コートジボワールの4.51t/ha、モーリタニアの4.16t/haが続きます。しかし、アフリカ全体の稻の平均収量2.64t/haに対して、NERICAの平均収量は2.10t/haと低かったです。特に、コンゴとコンゴ民主、ガンビアおよびリベリアでは、NERICAの平均収量が1t/haにも達しませんでした。これは、余程の不適地に栽培されたか、あるいは適切な栽培管理がなされず、NERICAがもつ本来の多収性を発揮できなかったためと思われます。この他にも、カメルーン、チャド、ギニア、ギニアビサウ、ナイジェリア、シェラレオーネなどで、NERICAの平均収量が2t/ha以下でした。これらの国のNERICA栽培には、未解明の根本的な問題があるかも知れません。このように、NERICAの栽培・普及は、国によってさまざまであり、まだ十分に普及されているとは言いがたい状態です。換言すれば、このようなNERICAの低収地帯において、NERICAの適切な栽培管理を指導し、その技術を普及させることができれば、間違いなくアフリカ全体の稻の生産量が上がると予想できます。

「アフリカ稻作振興のための共同体」(Coalition for African Rice Development: CARD)の次期フェーズでは、このような地域を重点的に稻作改善の指導することも、重要となりましょう。

世界のコメ統計(2018)によれば、アフリカの一人当たり年間コメ消費量(精米換算)は、1990年代の17kgから、2017年には30kg以上になっています。30年足らずでコメの消費量が約2倍になっているのです。アフリカの米の需要は、今後ますます増加すると予想されるので、それに見合う稻の生産量拡大が望されます。

NERICAの出現が、アフリカの稻作に強烈なインパクトを与え、その将来に大きな希望の光を与えたことは確かです。しかし、上述のように、現時点でNERICAが当初の期待に応

えて、持てる力を十分発揮しているとは言いがたい状況です。NERICA が本来持っている多収性など性能を可能な限り引き出し、有効に活用することが、これからアフリカ稻作の発展には欠かせないと思われます。いわば、NERICA の時代はまだ始まったばかりであり、これからあるとも言えましょう。

最近 AfricaRice では、ARICA (Advanced Rice for Africa) を育成・公表しています。NERICA が *O. sativa* と *O. glaberrima* の種間交雑に由来すると定義されたのに対し、この ARICA にはそのような定義はありません。現在 AfricaRice では、新しい育種タスクフォースの下、アフリカ内外から有用遺伝資源を導入する一方、各種ストレスに対する国際的現地試験を構成し、幅広く効率的な育種戦略を探っています (Kumashiro et al. 2013)。こうして、既に ARICA1 ~ ARICA18 の品種が育成・公表されています。

CARD の次期フェーズは、次の 10 年間にアフリカの稻生産をさらに倍増させる計画のようです (丸尾 2018)。NERICA や ARICA の適切な栽培管理技術の普及も、必ずその一翼を担うものと思います。

以下は JICA 広報からの引用です。

アフリカ・サブサハラ地域でコメの需要は今後も高まることが予測されるなか、コメの生産量を 2018 年の 2800 万トン (推定) から、2030 年までに 5600 万トンへとさらに引き上げ

表 27-1 サブサハラ諸国の NERICA 栽培状況 (2013 年)

国	NERICA 栽培面積 (ha)	NERICA 生産量 (t)	NERICA 平均収量 (t/ha)
ベナン	17,747	50,287	2.8
ブルキナファソ	22,057	46,400	2.1
カメルーン	3,835	6,483	1.7
中央アフリカ	2,286	6,260	2.7
チャド	33,005	48,609	1.5
コンゴ	531	250	0.5
コートジボワール	61,180	276,135	4.5
コンゴ民主共和国	82,110	52,292	0.6
エチオピア	9,468	27,134	2.9
ガボン	100	250	2.5
ガンビア	7,800	6,681	0.9
ガーナ	34,761	83,891	2.4
ギニア	177,100	302,407	1.7
ギニアビサウ	21,735	30,891	1.4
リベリア	37,030	35,057	0.9
マダガスカル	14,300	40,800	2.9
マリ	172,352	570,233	3.3
モーリタニア	6,440	26,809	4.2
ニジェール	2,093	5,892	2.8
ナイジェリア	395,200	690,900	1.7
ルワンダ	2,828	13,809	4.9
セネガル	17,425	62,379	3.6
シェラレオーネ	104,650	184,944	1.8
トーゴ	10,465	24,304	2.3
ウガンダ	14,973	31,522	2.1
タンザニア	149,452	323,287	2.2
合計 (2013)	1,400,923	2,947,905	2.1
全アフリカ稻合計	10,894,197	28,742,087	2.6
全アフリカ対比 (%)		12.9	10.3

注¹⁾ 全アフリカ稻合計は、アフリカ全土の稻作の合計、

注²⁾ 全アフリカ対比(%)は、全アフリカに対する各国 NERICA 合計の比。

(出典)Africa Rice Center 提供(2018 年 8 月 4 日)



ることを目標とする CARD フェーズ 2 に向けた議論が進んでいます。対象国も現在の 23 カ国に加え、アンゴラ、スーダンなど 9 カ国が新たに参加を希望しています。

アフリカの持続可能な開発を後押しするアフリカ開発のための新パートナーシップ (NEPAD) 調整庁などとの連携をさらに図り、アフリカ主導で稲作振興を進める取り組みを JICA も後押ししていきます。CARD 総会での最終合意を得て、今年 8 月 28 日～30 日に横浜で開催される第 7 回アフリカ開発会議 (TICAD7) の開催年である 2019 年より CARD フェーズ 2 が始まる予定です。

